

いぶき

題字：阿部 一雄

2021年度 一般社団法人 小樽青年会議所 スローガン

立ち止まるな！ ～ 今、必要とされる組織へ～



■事業報告
■出向者報告
■新入会員紹介 他



理事長
あべ かずお
阿部 一雄

はじめに

一般社団法人小樽青年会議所 第六十七代理事を預らせていただいております。阿部一雄と申します。日頃より、一般社団法人小樽青年会議所の活動、運動に對しまして、深いご理解とご協力をいただいております。昭和三十年六月に全国で六十九番目のLOMとして認証されて以来、常に未来を見据えた問題意識を持ち、変革の能動者として弛まない努力と情熱で新しい時代を切り拓き、歴史と伝統を築いてこられました先輩所見に心より感謝と敬意を表する次第であります。

スローガンについて

本年創立六十六周年を迎えるにあたり、一般社団法人小樽青年会議所は「立ち止まるな！〜今必要とされる組織へ〜」をスローガンに掲げ、二〇二一年度の活動をスタートしました。昨年から猛威を振るっている新型コロナウイルスの感染拡大は、

私たちの生活を大きく変えるほどの影響をもたらしました。

そのような中、私たちメンバーは積極的に活動を行うことに少なからず葛藤する中、まずは自分たちメンバーが青年会議所の存在意義を自覚し、この苦しい状況下だからこそ地域の方々から信頼を寄せられるJAYCEEとして、立ち止まらずに、今できることを行動に移していく必要があるということから、今回のスローガンとさせていただきます。誰のために、何のために我々は活動運動を行っているのか、青年会議所は地域や社会を青年の目線から幅広くとらえ、問題のある仕組みを自ら見つけ、より良く変えていくことができます。広い視野から社会課題の核心にアプローチしようとする青年組織は、青年会議所だけと自負しております。

本年度は、これまでに一般社団法人小樽青年会議所が地域とともにどのように歩んできたのか設立当初の理念を再確認するとともに、我々が住み暮らすこのまちにはどのような文化・歴史があり、今の小樽が存在しているのか、まちの特性を過去から学びなおすため、「おたる案内人」検定試験の受験を通し、小樽の歴史を学びました。地域の課題はその地域を知ることで見つかる、そして、その課題を解決するには確かな行動力と組織力が必要であることをメンバー全員で共有してまいりました。

会員拡大について

地域をより良くすることは決して簡単なことではありません。どんなにまちを良くしたいと願っても、行動を起こさなければ変わることはありません。誰かが考え、具体的に実行したことだけが社会を変えていきます。そのためには我々と志を同じくする多くの仲間が必要です。本年三十二名からスタートしたメンバーは先輩諸賢のお力添えをいただきながら六月末時点で十三名の新入会員が入会していただくに至りました。しかしながら、この時代を預かっている青年である私たちが、次代を担う子ども達の未来が輝くよう、地域に対して力強く運動を展開していくためには単年度制の枠を超えた会員拡大という手段がまだまだ必要です。会員拡大は青年会議所が地域の皆様に認識され、共感されていることの一種のパロメータであり、地域が元気であり続けることのできる希望の証にもなると私は信じております。青年会議所の必要性を感じ、メンバー一人ひとりが胸を張って同志を募ることができる持続可能な組織となり、六十六年の歴史と伝統をさらに発展させていけるよう、全メンバーの英知と勇氣と情熱を結集して活力に満ちた明るい豊かなまちづくりに向け一層邁進してまいります。

さいごに

結びになりますが、今後とも一般社団法人小樽青年会議所に対しまして、変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝と益々のご発展をご祈念申し上げご挨拶に代えさせていただきます。



1月第一例会

一月九日に定時総会をハイブリッド形式にて開催しました。

残念ながら新年懇親会は新型コロナウイルス感染拡大のため、中止となりましたが、例年とは違う形で稲垣委員長率いる総務交流委員会が今年度のスローガン「立ち止まるな！

「今、必要とされる組織へ」として、北海道新聞にて第六十七代阿部一雄理事長率いる小樽青年会議所の二〇二一年度の活動を報告し、市民から現在の小樽市においての「地域の課題」を募集しました。

今までは自分たちで課題や問題点を探し、事業を行うことが多かった私たちですが、今、自分たちが住み暮らす地域社会では何が求められているか、必要とされているものは何かをしつかりと調査、研究し、課題解決に向けて行動をしていくためにも、市民のみなさまの声を聞くことが重要であると考えました。結果として、幅広い市民の様々な意見を聞くことができなかった問題点や課題についても理解を深めることができました。

市内でのごみ拾いの企画など、いただいた課題について今年の九月までに活動を行っていく予定です。今後も、地域の声を聞いて小さなことでも行動に移しながら市民との距離を縮め、小樽青年会議所が誇れる組織になる第一歩にしていきたいと思います。



第一回新会員セミナー

一月十五日に木村委員長率いるメンバーシップ推進委員会担当による第一回新会員セミナー「青年会議所の基礎知識と目的、効果的な目標設定」を行いました。

青年会議所の基礎知識と目的、効果的な目標設定と題した二部構成となっており、第一部では青年会議所の歴史や小樽青年会議所の成り立ち、マナーや用語など基礎知識を学んでいただきました。今年入会された新会員の皆様はもちろんですが、既存メンバーにおいても青年会議所についての理解を改めて深められる内容となりました。

第二部では有限会社リバティー北海道代表取締役張利彦氏をお招きし、SMI（サクセス・モチベーション・インスティテュートの略）についてお話していただきました。体験談や成功例など具体的にわかりやすく説明してくださり、自分自身の目標設定を明確にすることの大切さや、潜在能力を最大限に発揮するためにどう行動するべきかなどについて理解を深めることができました。それぞれが自己実現に向けて切磋琢磨し、より良い青年会議所活動ができるように努力していきたいと思えます。

コロナ禍において、急遽中止になつてしまう可能性もありましたが、対面式での事業となりました。



2月第一例会

二月には小樽雪あかりの路に参画し、すべり台運営などを行っていたところでしたが、二〇二一年度の小樽雪あかりの路は開催中止となりました。しかし、小樽青年会議所企画にて小樽市立病院と石橋病院に二月六日、七日の二日間限定で、少しでもまちに明かりを灯したいという思いと、また医療従事者の方々に少しでも元氣になっていただこうという思いを込めて、ワックスプレートで「みんなで乗り越えよう！いつか笑顔になれる日まで！」と作成し、点灯しました。

また、二月十二日～十四日においては小樽青年会議所として、雪あかりの路の原点である、まちに明かりを灯すという運動を各メンバーの会社や自宅で行いました。

また、市民のみなさまがそれぞれの自宅で、楽しめるよう、バケツキャンダルやワックスプレートの作成方法についての動画作成を行い、SNSを通じて伝える活動も積極的に行いました。

例年とは違った雪あかりの路でしたが、個々がそれぞれの思いを込めて作る雪あかりは、まちをオレンジの明かりで優しく包みました。



3月第一例会



三月二日渡邊議長率いるJCの可能性追求会議担当によります。3月第一例会「おたる案内人となって、私たちが小樽の可能性を追求していこう！」を行いました。第一部では、講師としておたる案内人検定一級の資格を有する副理事長天野孝太郎君より、何故小樽の歴史や成り立ちを知ることが必要なかを、講義してもらいました。第二部では、おたる案内人検定の試験に向けて、過去問を元に会議体で製作した問題を出席者にて、合格ラインの六十点に達しているのかテストを行いました。第三部では、小樽JCが活動してきた中で小樽の歴史・文化に関わる事業を取り上げ、当時の委員長をされていた先輩方がどういった思いで事業を構築したのかをインタビューにて

出演していただき、まちの歴史をどのように学び、どのように捉えたのかをお話していただきました。

また、例会の報告事項の中で、本年度入会の新会員の北條君が会長、笠田君が副会長と決まり、会名は「創越会」と発表されました。

三月十四日には、小樽案内人検定試験に多くのメンバーが挑戦致しました。個々が小樽の歴史についての理解を深めることで、郷土愛が増し、また新たな魅力を発見することで、今後より良い活動を行っていくことができるかと実感しました。



第二回新会員セミナー

三月三十日木村委員長率いるメンバースhip推進委員会担当による第二回新会員セミナー「礼節と品格あるJAYCEEとなるために」を行

いました。第一部では「後期配属に向けて知っておきたいマナーと礼節」を学んでいただきました。第一回新会員セミナーのおさらいを含め、各委員会の特色、外部での活動予定を伝え、後期配属される新会員に基本となる礼節あるJAYCEEになることについて、委員会メンバーのプレゼンテーションにてお伝えしました。第二部ではSARTORIA FISTY代表坪田 昇氏をお招きし、「品格あるJAYCEEになろう」についてお話していただきました。

近年、クールビズやスマートカジュアルの普及もあり、その際に気を付けるべきマナーなど、今までなかなか聞く機会がなかった内容もあり、新会員だけではなくメンバーにも興味深い内容となりました。



4月第一例会



四月二日山本委員長率いる小樽ブランド推進委員会担当によります。4月第一例会「温故知新く小樽の独自性をいかした新たな魅力の共有」が行われました。

講師に本年度アドバイザーの小樽市産業港湾部観光振興室 旭 亮介氏をお招きして「小樽観光の課題や今後の展望」についてお話していただきました。通過型観光や観光スポットの固定化の小樽観光の課題や課題解決のための舵取り役となるDMO（観光地域づくり法人）の設立と今後の展望を講演してもらいました。

小樽の観光滞在時間の短さなどの課題など、現在の問題点や今後考えられることについてメンバー一同理解を深め、再認識することができま

した。

また、小樽観光の発展につなげるために、日常化している小樽の潜在的な観光資源から発掘した、小樽の独自性をいかした観光の新たな魅力を共有できたのではないかと思います。その他、旧手宮線にスポットを当て、今後どのような活用方法があるか等、具体的な例を挙げ活発なグループディスカッションも行われました。

今後も旧手宮線を新たな観光資源とするため、邁進していきたいと思っています。

北海道地区協議会

出向報告①

組織支援特別会議

副議長 織田和陽

今年度、組織支援特別会議の道南エリア副議長として出向させていただいております。本会議体の主な役割としては、自主自立のLOM運営と各地で起こす運動の最大化を目的として本会組織グループ各委員会や会議体と連携した事業の推進です。

各LOM毎、抱えている課題が多岐に渡る中、女性の活躍や会員拡大といった社会的課題も含めて全国各LOMの良質な情報を共有し反映していただくべく活動しております。道南エリアアカデミー生以降初めて

の出向となりますが、様々な出会いに恵まれております。

今後は、北海道地区協議会や本会の先進的な取り組みを小樽青年会議所に持ち帰るよう、より一層活動し、残りわずかではあります但し自分と与えられた役割をしっかりと果たして参りたいと思います。



出向報告②

広報戦略特別会議

副議長 伊藤晴竹

広報戦略特別会議では道民のJICに対する認知度および期待度向上の為、各LOMの活動、会議体や委員会について取材をし、HPやSNS、動画サイトなどで広報活動を進めております。

二月の道南エリアウインターコンファレンスでは広報戦略特別会議の会議体の設立や広報の手法についてZOOMにてスピーチしました。続いて二月、三月、四月にライブ配信セミナーを開催し配信に必要な機材について、OBS（無料のライブ配信ソフト）の使い方などを参加者メンバーに受けていただきました。道北、道東、道央とセミナーが終わりまして残り道南エリアでの開催準備の途中でございます。

二〇二一年度も半年が過ぎましたが、出向先での人とのつながりや広報について大変勉強させていただいております。



出向報告③

ニューノーマルライフ創造委員会

副委員長 遠藤雅光

二〇二一年度北海道地区協議会ニューノーマルライフ創造委員会の副委員長として、人生初となる出向しております。「JICフォーラムの構築委員会」といった方がゆかりのある方々が多いかと思っております。昨年度から「JICフェスティバル」という名称に改名され、フォーラムと同一内容でありましたが、対面での事業は中止となり、TV放送をする事業に切替わっております。本年も対面式を避け「JICフェスティバル二〇二一」を構築してまいりました。

事業内容としては五月二十九日にHBC北海道で放送された「麒麟川島明のクイズで発見ニューノーマル北海道」、五月から北海道地区協議会YouTubeチャンネル「まるごそ北海道」内で配信されている各プロパー委員会の事業、「JICリーグU-11」北海道地区予選大会となっております。

出向することにより、多くの仲間が増え自己成長につながることを実感しており、小樽LOMの代表として出向していることを自覚し、成長した自身がLOMに持ち帰り行動で示していきます。そして残り半年間噛みしめながら取り組んでまいりたいと考えております。

二〇二一年度 事業予告



本年度、小樽ブランド推進委員会の委員長を務めております、山本将之でございます。

新型コロナウイルス感染拡大により、小樽の基幹産業である観光産業は大きく影響を受けており、感染防止の観点から長距離移動が困難となり、国内外の観光客が激減しました。現在、長距離移動を伴う旅行から近隣エリアの旅行である「マイクロツーリズム」があり、近隣の地域の方々が繰り返し訪れてくれることで、観光の回復につながるという観光の手法が注目されております。小樽観光の課題である観光スポットの固定化を解消し、小樽の独自性を生かし

た新たな観光スポットを創出する必要があると考え、二〇二一年度は「旧手宮線跡地」にスポットを当てることと致しました。

まずは、四月第一例会で「温故知新」小樽の独自性を生かした新たな魅力の共有」と題し、小樽観光の発展につながるために小樽観光の新たな魅力を青年会議所メンバーに認識してもらう例会を設けました。

そして、九月にオープン事業として「旧手宮線跡地」での事業を行います。令和元年度認定の日本遺産である「炭鉄港」の構成文化財であり、昨年百四十年を迎えた北海道鉄道発祥の地であるオンリーワンの魅力がある場所で、何気なく歩く人たちにとって心地よい体験となるように線路枕木を鍵盤に見立てて、踏むと光り、音が出るピアノにし、みんなで演奏して秋季の夜の旧手宮線にかりが灯せるように産業遺構を活用した小樽の独自性を生かした魅力作りを致します。光と音のインスタレーション事業です。

最後に、十月第一例会でメンバーと構築した事業の検証を行い、小樽の未来の観光産業につながる可能性を追求し、価値を共有致します。

青年会議所は、挑戦と失敗、反省を繰り返し、試行錯誤しながら目的に向かって進む、いわゆる「Try and Error」しながら少しずつ前に進んでいく団体だと思っております。まわりの人々においてもこの繰り返しが必要だと思っております。残り半年間で、新型コロナウイルス感染拡大により衰退した観光産業の一助となり、今後の小樽観光を支える観光スポットの一つとしてのきっかけとなる事業構築が出来るように、メンバーと共に挑戦し、邁進してまいります。

要だと思っております。残り半年間で、新型コロナウイルス感染拡大により衰退した観光産業の一助となり、今後の小樽観光を支える観光スポットの一つとしてのきっかけとなる事業構築が出来るように、メンバーと共に挑戦し、邁進してまいります。



小樽JC下半期スケジュール

七月二十四日

七月第一例会 第五十五回おたる潮まつり

七月二十五日

六月第二例会 道南エリアスポーツ大会 in 余市

(JCの可能性追求会議)

八月十日

八月第一例会 新会員例会(創越会)

九月十一日〜十二日

九月第一例会 地区大会千歳大会 (総務交流委員会)

九月中旬〜下旬頃

九月オープン委員会

九月二十八日

九月第二例会 (メンバーシップ推進委員会)

十月七日〜十日

全国大会 とちぎ宇都宮大会 in 宇都宮

十月二十日

十月第一例会 (小樽ブランド推進委員会)

十一月十日

十一月第一例会 五十六年組を送る会 (五十七年組)

十二月二日

十二月第一例会 次年度アワー (次年度三役)

十二月十九日

十二月第二例会 褒賞例会 クリスマス家族会 (総務交流委員会)



- ①生年月日
- ②血液型
- ③勤務先
- ④役 職
- ⑤会社住所
- ⑥趣 味



おおさき けんじ
大越 圭

- ①S57年1月7日
- ②A型
- ③エックスオン合同会社
- ④店長
- ⑤小樽市稲穂2丁目7番2号
- ⑥キックボクシング、カメラデザインレイアウト



そけい はやと
曽慶 一斗

- ①H9年2月3日
- ②O型
- ③日本信達株式会社
- ④
- ⑤小樽市桜3丁目20番2号
- ⑥釣り、キャンプ、サッカー



さいじょう きみとし
西條 公敏

- ①S59年9月9日
- ②A型
- ③西條産業株式会社
- ④代表取締役副社長
- ⑤小樽市有幌町2番16号
- ⑥フットサル、ゴルフ



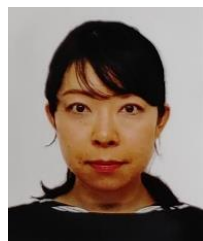
はが まなみ
羽賀 麻菜美

- ①H3年9月7日
- ②A型
- ③エレガント
- ④
- ⑤小樽市花園1丁目12番2号
- ⑥



さとう よしすけ
佐藤 嘉祐

- ①S57年7月13日
- ②B型
- ③佐藤嘉祐税理士事務所
- ④代表
- ⑤札幌市白石区平和通5丁目北10番14号
- ⑥ゴルフ



わたなべ ちか
渡邊 知佳

- ①S56年8月29日
- ②A型
- ③メガネのサトウ
- ④代表
- ⑤小樽市花園3丁目25番13号
- ⑥アウトドア、野球



アドレスまたはQRコードから HP
へアクセスできます。

<http://www.otarujc.or.jp/>



総務交流委員会
委員長 稲垣孝臣

ぞ宜しくお願い致します。どうぞ
けるは是非シェアしていただ
を投稿してまいります。ご利用
また、SNSを利用して活動
広報活動を行ってまいります。
知っていただくよう、効果的な
議所の活動を多くの皆様に
〇二一年度(一社)小樽青年会
きとホームページを介して、二
念式典となりました。
本年度は創立六十六周年記
編集後記